

神戸市内の宗教法人による社会貢献活動に関するアンケート調査

NPO法人しゃらく

2021年11月

調査の目的と手法

■ 目的

- 神戸市内の宗教法人による社会貢献活動の実態把握

■ 手法

- 対象団体：兵庫県知事所轄の宗教法人から神戸市内に所在する宗教法人(1,291件)
- 調査方法：2021年9月に依頼文を送付し、Webアンケートから回答
- 調査期間：2021年9月1日から10月3日

■ 調査主体

- NPO法人しゃらく・坂本治也（関西大学 法学部 教授）

調査結果

■ 送付数

- 1,291件(不達：157件)

■ 回答数

- 45件(回収率3.4%、不達を除くと3.9%)

■ 注意点

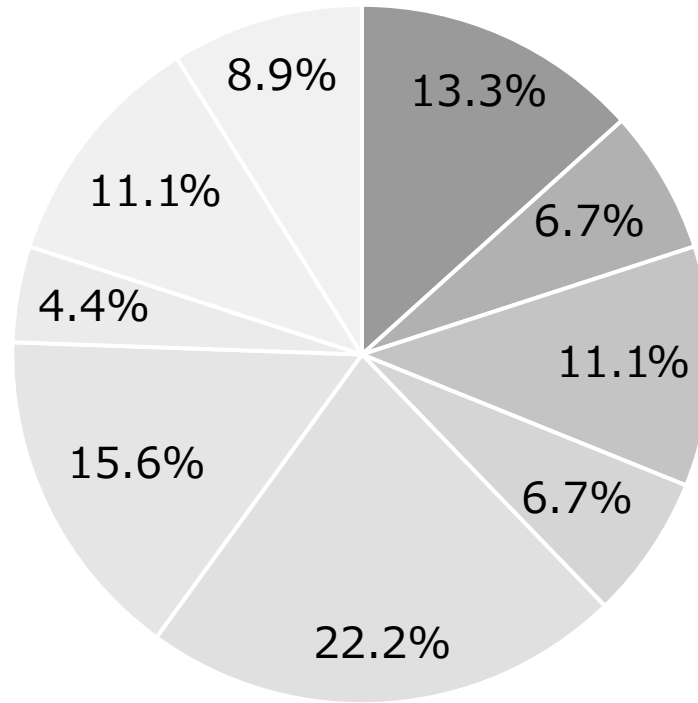
- 自由記述の設問においては、その回答内容から回答団体が推察できる場合は、回答内容を若干変更し、掲載した

回答者属性

法人住所

- 回答者の法人住所を区別に分類した。最も多かったものは北区（22.2%）である。
- 送付数別では、東灘区（8.2%）、灘区（9.6%）、中央区（10.9%）、兵庫区（14.3%）、北区（16.3%）、長田区（11.2%）、須磨区（8.2%）、垂水区（6.0%）、西区（15.3%）である。

N=45

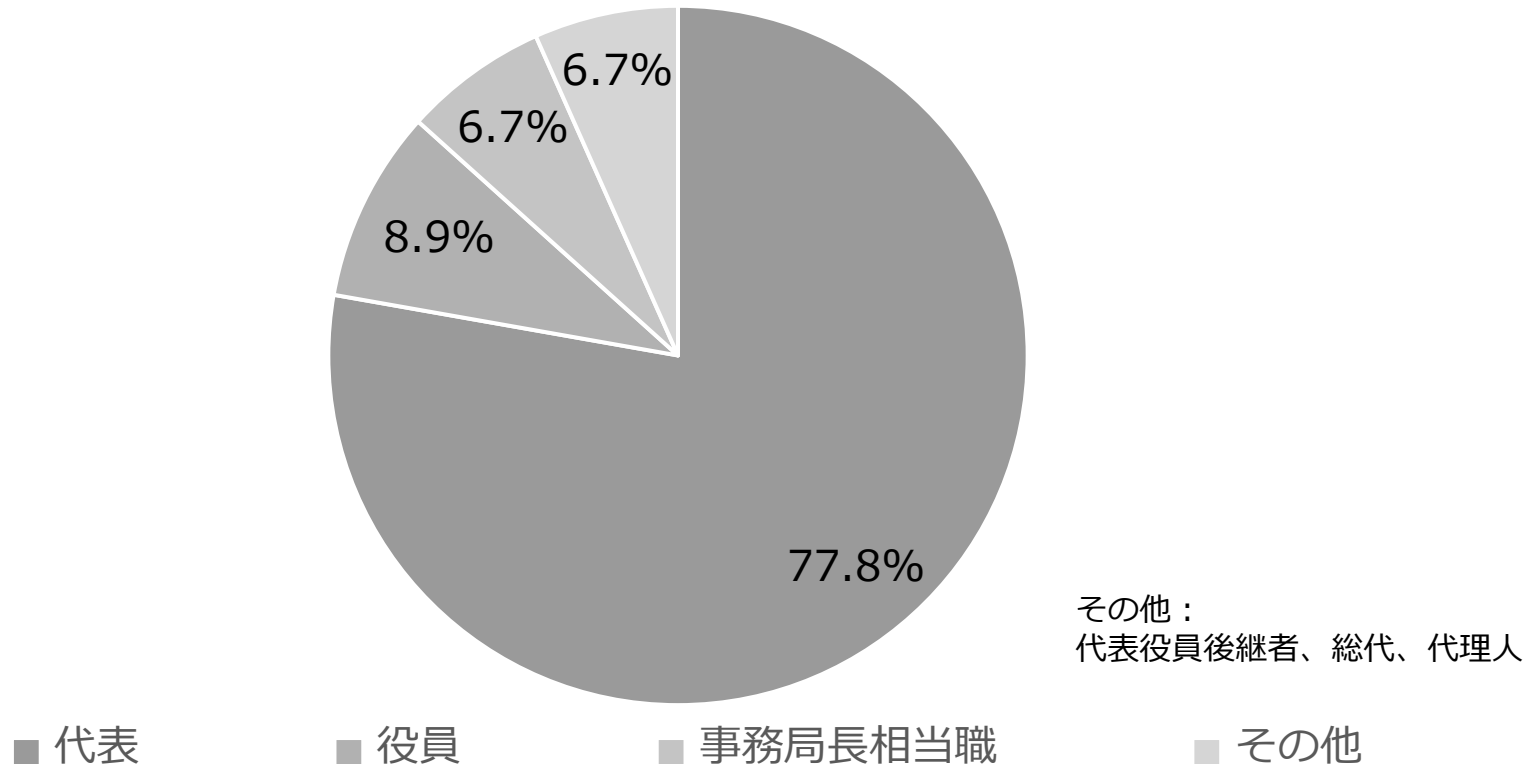


■ 東灘区 ■ 灘区 ■ 中央区 ■ 兵庫区 ■ 北区 ■ 長田区 ■ 須磨区 ■ 垂水区 ■ 西区

回答者役職

- 回答者の役職を確認した。「代表（代表役員など）」は77.8%、「役員（責任役員など）」が8.9%、「事務局長相当職」が6.7%である。
- 「その他」は図の右下にその回答内容を記載した。

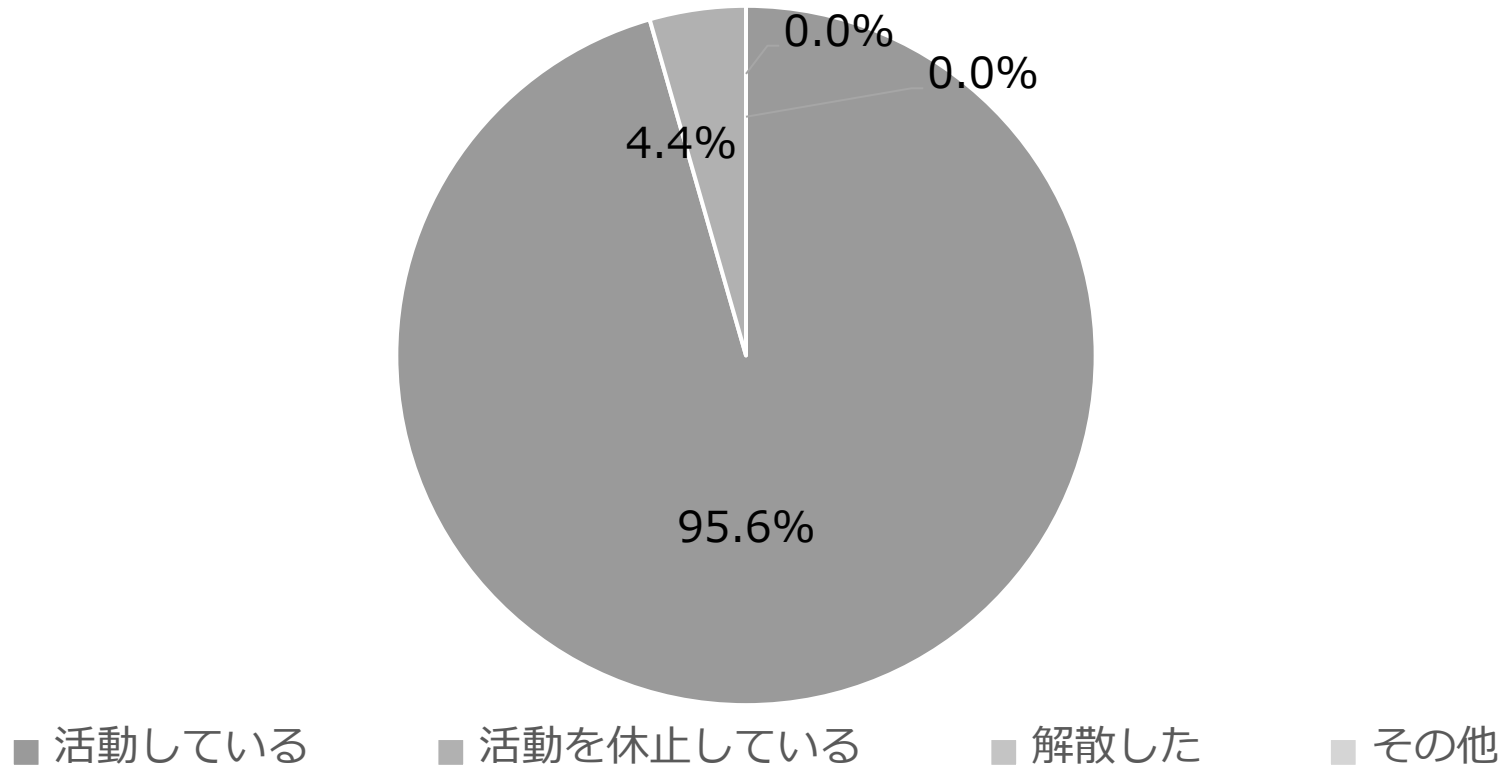
N=45



宗教法人の活動状況

- 宗教法人の現在の活動状況を聞いた。95.6%が「活動している」を選択し、4.4%が「活動を休止している」を選んだ。
- なお、「活動を休止している」を選んだ法人については、以降の設問の回答は集計していない。

N=45

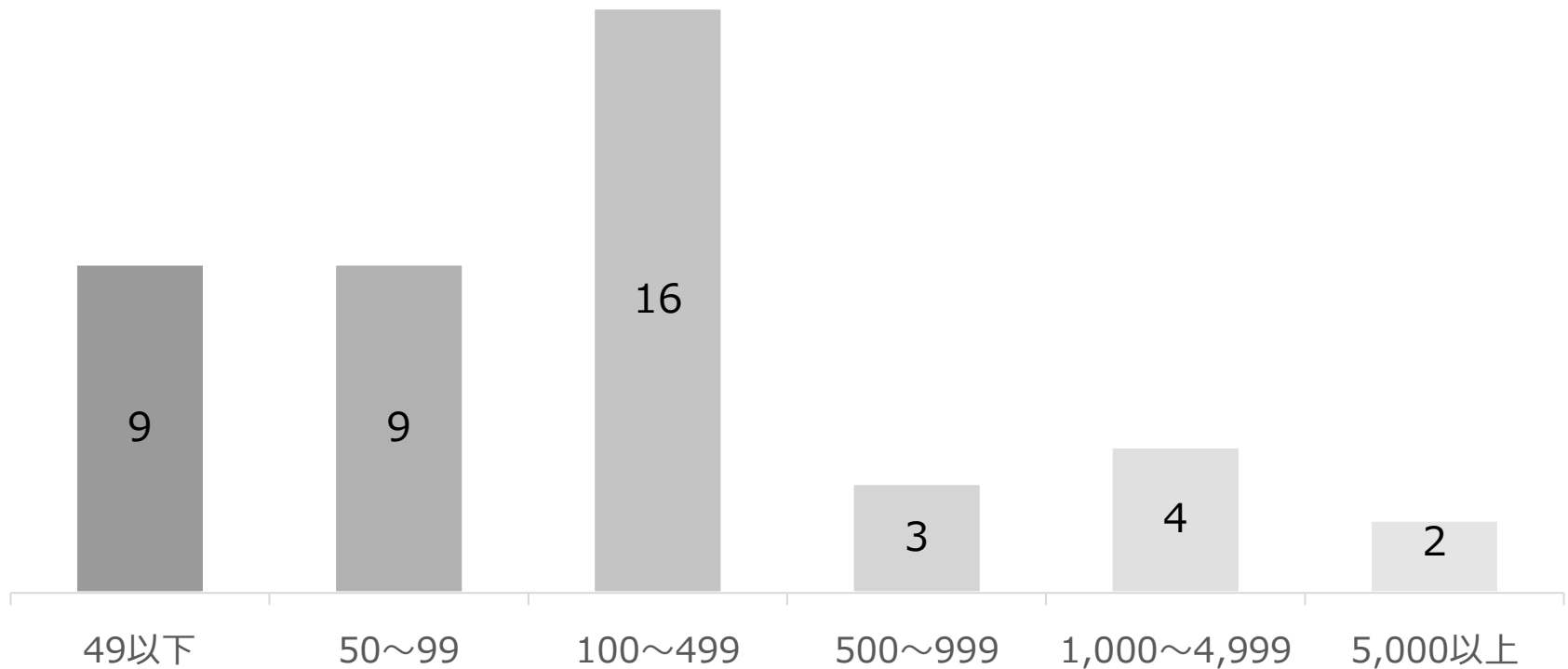


基礎情報

信者の人数

- 信者（各宗教によって呼称は異なる）の人数を聞いた。「約〇人」という回答が多かったため、ヒストグラムで区分した。
- 最小値は18人、最大値は20,000人、平均値は909人、中央値は130人であった。

N=43



責任役員の人数

- 宗教法人の責任役員およびそのうちの女性の人数を聞いた。合計の平均値は3.9人、うち女性は0.7人であった。また、女性の人数は、中央値および最小値で0人であった。
- 宗教法人法は3人以上の責任役員を置くことを定めているが、3人未満で回答した法人が9法人あった。

単位：人		合計	うち女性
責任役員	平均値	3.9	0.7
	中央値	3	0
	最大値	20	4
	最小値	1	0

有給職員の人数

- 有給職員（最低賃金以上を支払う）について、常勤（概ね週30時間勤務）と非常勤のそれぞれの人数を聞いた。
- 常勤と非常勤の平均値は2.1人と1.1人、中央値は1人と0人であった。また、女性の人数は常勤および非常勤のそれぞれ平均値と中央値で1人を超えなかった。

単位：人		常勤	うち女性	非常勤	うち女性
有給職員	平均値	2.1	0.7	1.1	0.9
	中央値	1	0	0	0
	最大値	21	6	13	9
	最小値	0	0	0	0

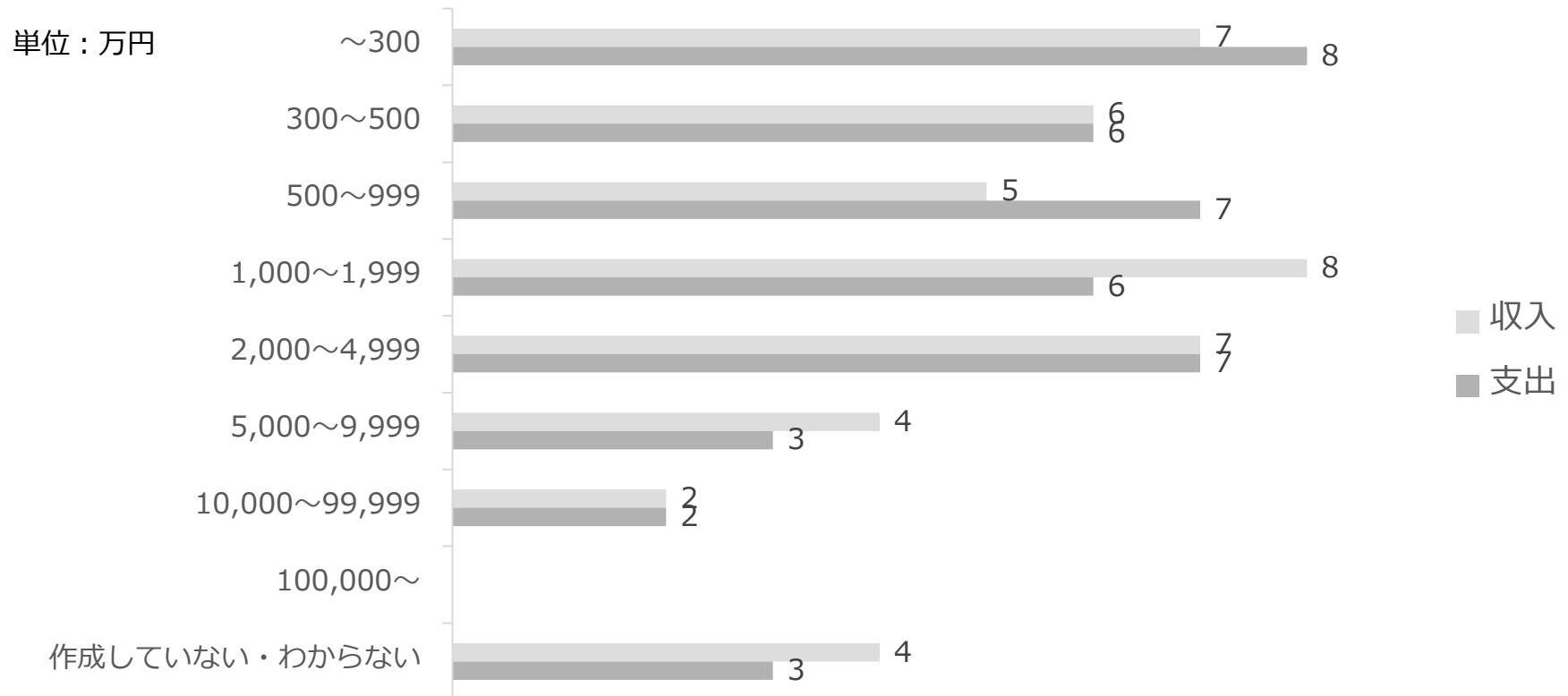
法人格の取得・活動開始

- 宗教法人の法人格と活動開始時期を聞いた。「○年代」、「○世紀」などの回答はそれらに近いと思われる整数に差し替えた。
- 宗教法人法の前身である宗教団体法も制定されていない時期に法人格を取得したという回答がいくつか見受けられたが、回答の8割の団体は宗教法人法下にて法人格を取得した。

単位：年	法人格	活動開始
平均値	1953.9	1739.6
中央値	1952	1901
最大値	2018	2006
最小値	1894	810

収支計算書の収入と支出

- 直近の決算の収支に該当する区分を回答してもらった。
- 10億円以上の回答はなかった。また、宗教法人法は収支計算書を作成しないこともできるからか、「収支計算書を作成していない・わからない」という回答が、収入と支出でそれぞれ4件、3件あった。



他団体との関係性

単位：%	団体を設立する際に相談	団体の運営について相談	定期的に情報交換	共同事業
国	2.3%	0.0%	4.6%	0.0%
都道府県	20.9%	6.9%	20.9%	0.0%
市区町村	2.3%	4.6%	9.3%	2.3%
社会福祉協議会	0.0%	0.0%	9.3%	2.3%
企業	0.0%	0.0%	9.3%	2.3%
商工会	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%
商工会以外の業界団体	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%
貴法人の系列の宗教法人	39.5%	27.9%	62.7%	18.6%
貴法人の系列の宗教法人以外の宗教法人・団体	4.6%	4.6%	25.5%	4.6%
NPO支援センター	0.0%	0.0%	6.9%	2.3%

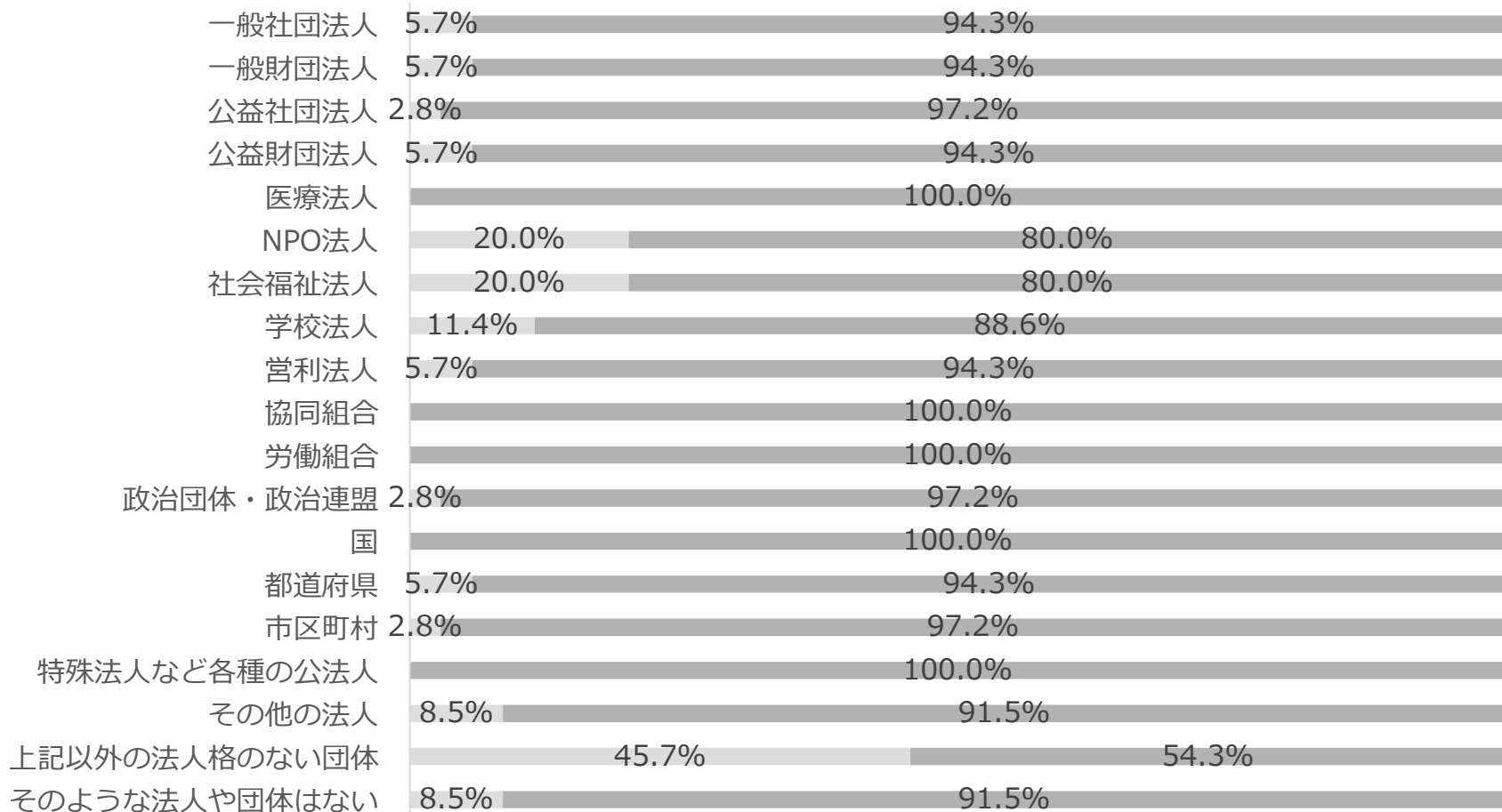
N=43

他団体との関係性

単位：%	団体を設立する際に相談	団体の運営について相談	定期的に情報交換	共同事業
貴法人の系列のNPO法人	0.0%	2.3%	4.6%	0.0%
貴法人の系列以外のNPO法人	0.0%	2.3%	11.6%	4.6%
貴法人の系列の公益法人（社団、財団、社福、学校法人など）	0.0%	0.0%	9.3%	4.6%
貴法人の系列以外の公益法人（社団、財団、社福、学校法人など）	0.0%	0.0%	11.6%	4.6%
任意団体（ボランティアグループなど）	0.0%	4.6%	18.6%	9.3%
地域団体（自治会など）	2.3%	2.3%	34.8%	6.9%
士業（行政書士や税理士など）	2.3%	13.9%	32.5%	0.0%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
そのような団体はない	6.9%	0.0%	0.0%	0.0%

N=43

人的・財政的に深いつながりのある 関連法人や団体



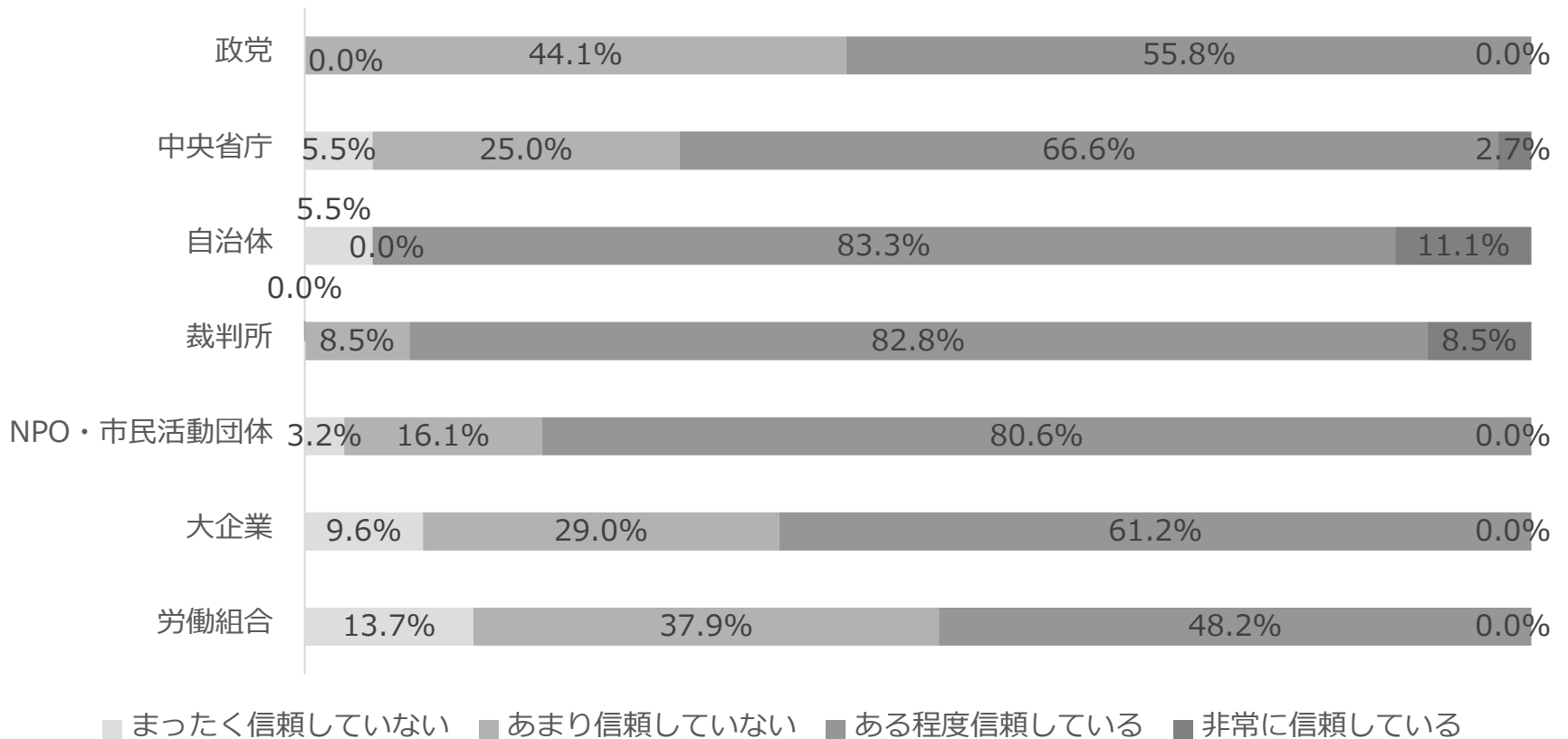
■ あり ■ なし

その他：
高野山真言宗、天道教中央総部、兵庫県神社庁・神社本庁

N=35

信頼度

- 回答者自身のそれぞれの組織や団体に対する信頼度を聞いた。
- 最も信頼されていると言える組織は、自治体と裁判所であった。また、信頼度が低いと言える組織は、労働組合と政党であった。

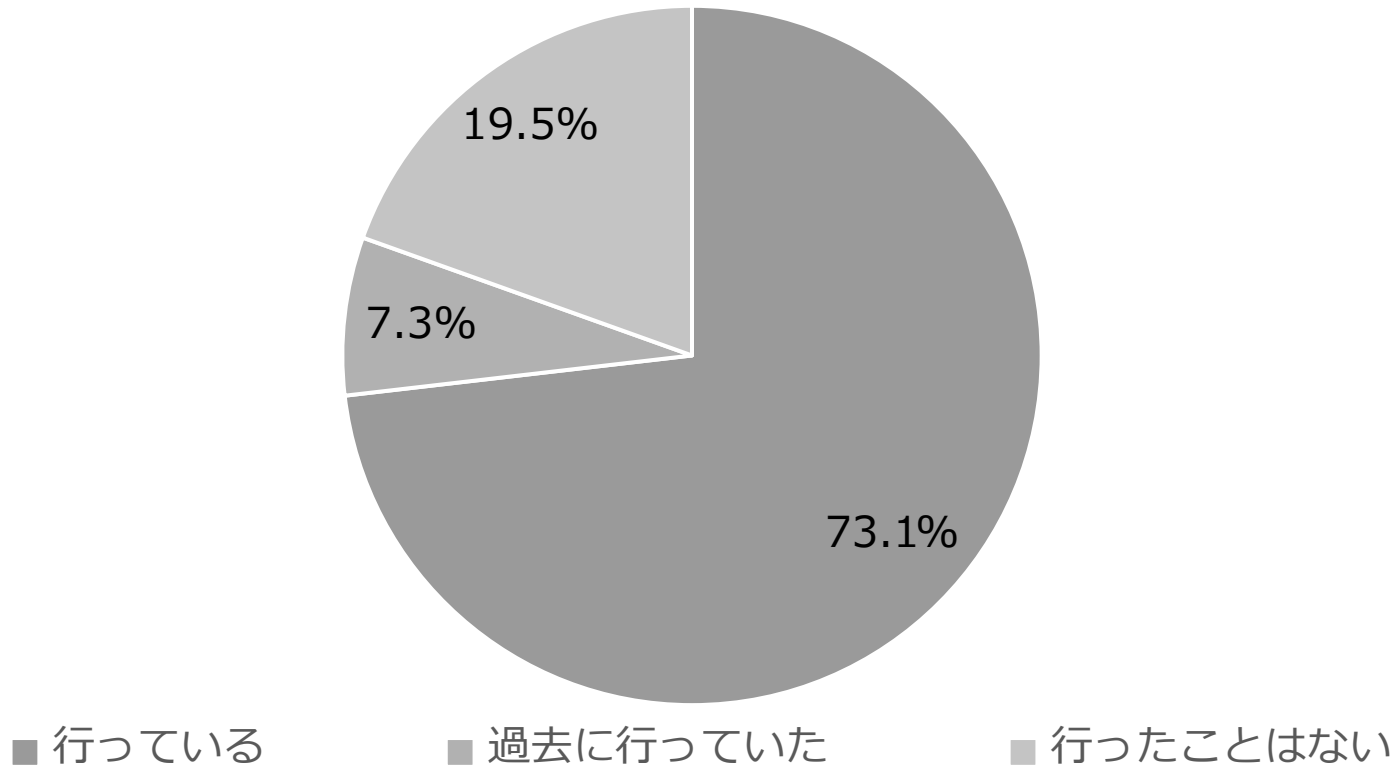


社会貢献活動

実施状況

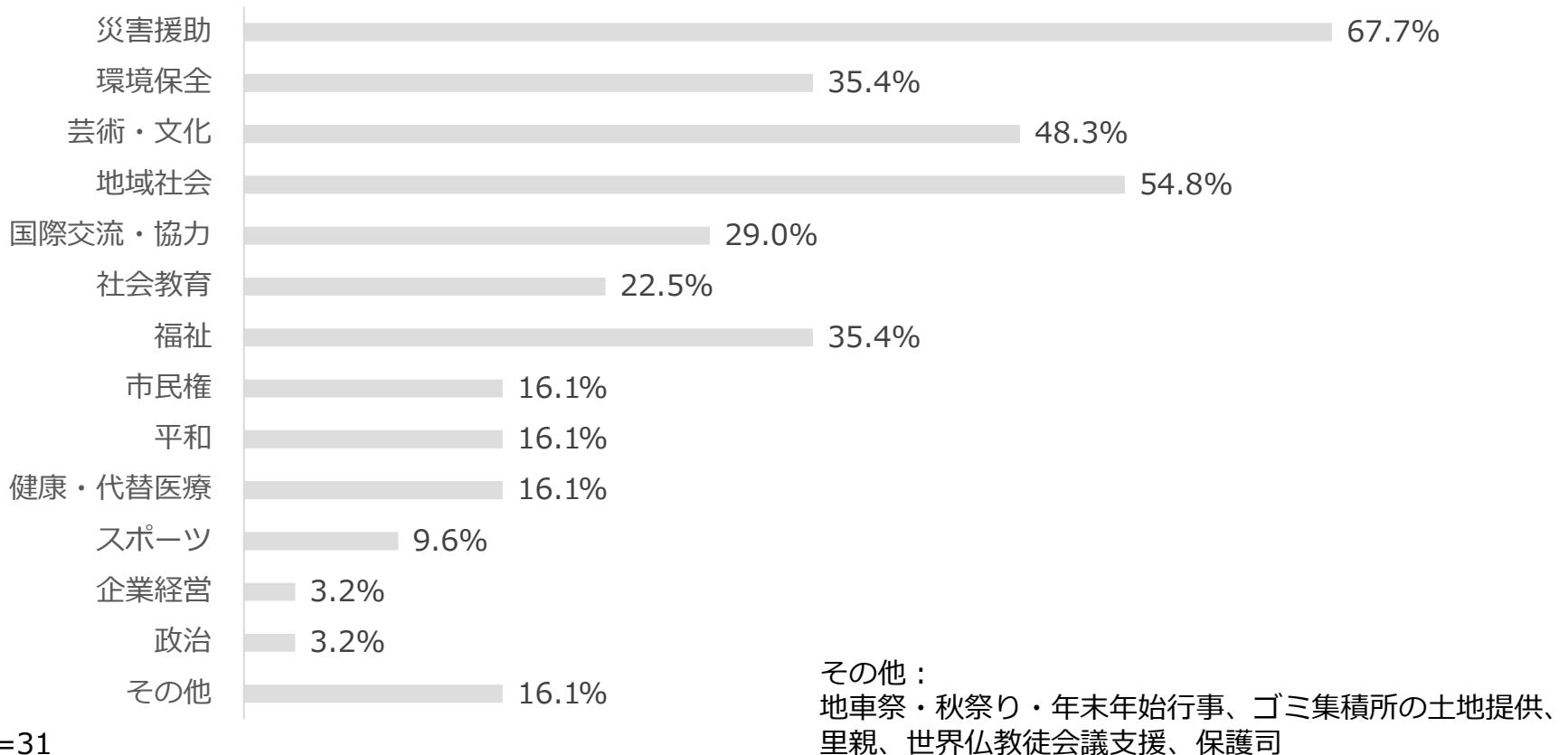
- 社会貢献活動の実施状況を確認した。なお、当調査における社会貢献活動は次の2つの条件を満たしたものであると定義した。
 1. 信者だけではなく、地域住民や市民向けに広く行うもの
 2. 法人として実施するもの。役員や職員の個人的な取り組みや、別法人による取り組みは含まない。

N=41



分野

- 分野ごとに事例を上げた上で、主な活動分野を選択してもらった。
- 最も多かった回答は災害援助、次に地域社会、芸術・文化が続いた。企業経営や政治は1法人のみの回答であった。



N=31

最も中心的に行っている内容

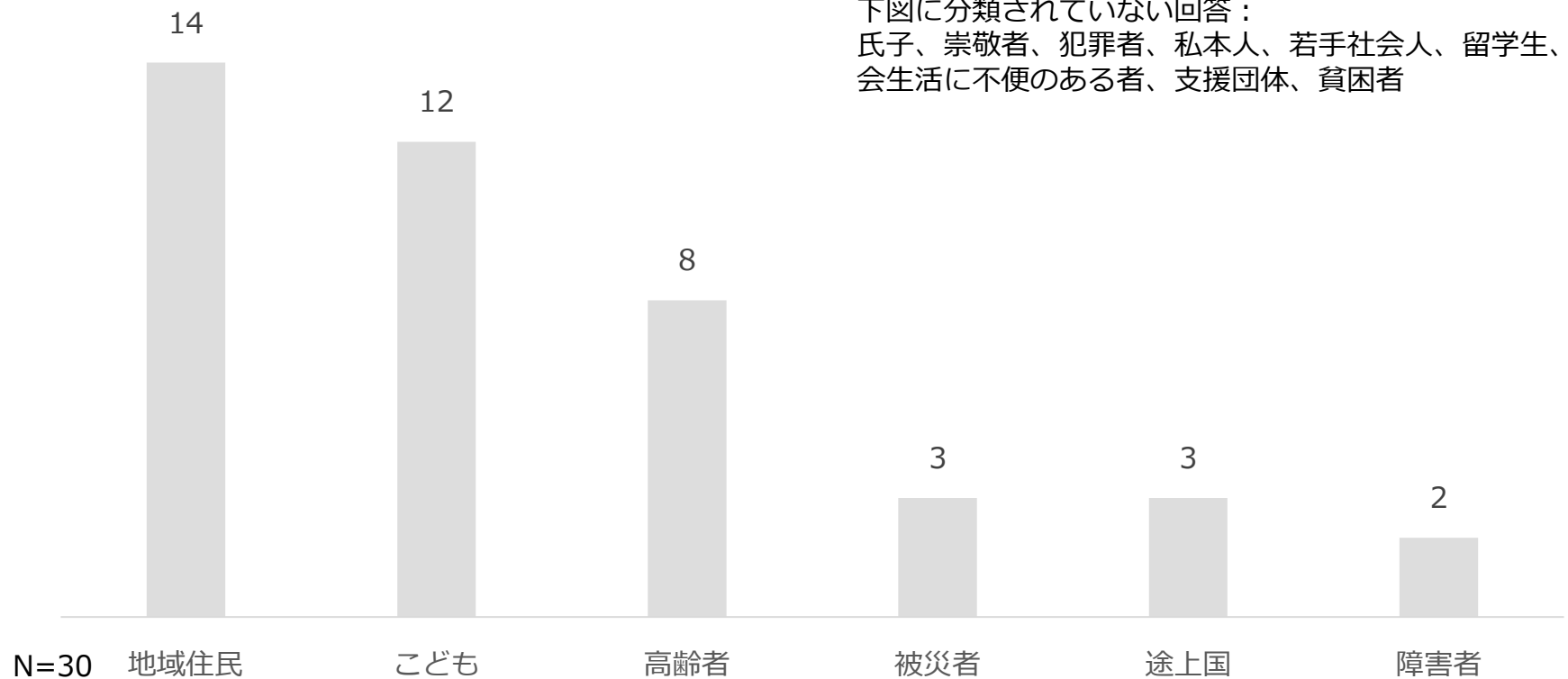
- 災害ボランティア
- 災害支援や避難所の提供などの回答が3件
- 義援金の寄付という回答が2件
- 地域清掃や公園清掃樹木剪定等という回答が2件
- 踊り念仏を芸術芸能文化として発信
- 病院、老人施設慰問、教会の青少年にて吹奏楽を演奏、和んでもらった。地域の音楽ホールでお話しと吹奏楽演奏を定期的に行った(コロナ禍以降、演奏は行なっていないが、アフターコロナを目指して練習は続けている)。
- 夏祭りの開催
- 敬老のうたげ
- 自治会活動などの回答が2件
- 地域自治会と協力した、春のコンサート、秋の落語会
- 地車祭
- 瞑想を含む写経会など
- 神社祭祀という回答が2件
- 全日本仏教会、国際NGO、社会福祉法人など
- NPO法人アジアチャイルドサポートへの支援
- ネパールにて拠点を開き、音楽等の活動を通し、青少年育成の支援を行なっています(現在はコロナウイルス蔓延で活動は休止している)。
- いただいたお供え物(主にお菓子)を支援先(一人親家庭を支援する団体)へお渡しする。
- こどもの居場所づくり こども食堂 学習支援 食料無償提供
- 子ども食堂への食糧支援
- コロナ禍の中で、学生や社会人などに対する精神的なサポートのためのYoutubeの配信
- ホームレス支援、食料配布等、難民支援
- 行き場のない方を預かっている。知的障害者を受け入れ、生活支援を行なっている。家庭裁判所の少年の保護委託を受託、期間終了後も継続して受け入れを行なっている。
- ボランティアグループによる居場所活動
- 社会福祉法人に対する後援会活動
- 生活困窮者を支援する団体への献金、児童虐待に取り組むNPOへの献金など。(自分たちでは行う力がない)
- 保護司
- 特定養護老人ホームの役員をしたり、定期的な訪問をしている。また障がい者のための社会福祉法人の活動を支援している。
- 保護司会活動、里親活動、災害救援活動、小中学校への雅楽授業、清掃活動
- 里親

開始した経緯やきっかけ

- 災害救援活動は当宗教が古く大正時代から行っている活動である。他の活動は地域社会からの依頼からである。
- 阪神淡路大震災の経験、阪神淡路大震災にてボランティア活動経験からなどの回答が3件
- 阪神淡路大震災を教訓として受けるより与えることの重要性を教えられる。また社会に密着した、社会に信頼されることを通過している。
- 昨今の大規模な水害予想(千年一)に対応した建物が近辺にないから
- 新型コロナウイルスの蔓延により、多くの人々が精神的なダメージを被っている。
- コロナ禍の中で起こった九州の豪雨災害をきっかけとして、お寺が継続してできる被災地支援の一つの方法として考えました。
- 『閉ざされた世界の中で懸命に生きる子供たち』の冊子を見たこと
- お寺とはいったい誰のもの？という疑問に対する答えとして、「私にとっての大切な場所」を答えてくれる人を増やしていくことである。お寺とは死者の為の場だけではない、生きている人の為の場でもあるという原点に立ち返るべきと思った。
- 約35年前より、近隣の知的障害者を預り、それをきっかけに次々と神戸市のケースワーカーが他施設で受け入れ困難なケースの駆け込み寺的にお使い頂き、並行して社会福祉法人を設立、役割分担で共に活動を継続している。
- 余ったお供え物（主にお菓子）を何処かに差し上げたいと考え、「おてらおやつクラブ」を通じ支援先を紹介してもらいました。
- 教団、協会の関係者がいたこと。教会に逃げて来た児童がいたこと。
- 社会福祉法人の代表者が会員であるため。
- 災害救援の活動は信仰的信念から
- されている教会に感化されて
- 学会・高校・大学・本山勤務中の活動・同宗連 他
- 宗派より貧困問題への対応するよう指示があったため
- 包括宗教法人からの推進による
- 16年前にお寺を移転して現在地の自治会となじむようになり、地域の親睦や文化交流ができればと考えた。
- 地域との交流の一環
- 地域の皆様の要望により
- 地域の子育て世帯の一助として 共働き世帯、貧困世帯、心身のサポートを必要とする世帯等の利用を通して負担の軽減をはかるため。また、子どもの健全な育成の為
- 地域の人々から中心的存在として、推挙されている。
- 地域住民誰もが参加できる写経会を始め、個人的に習得した気功治療を無償で実施する等の活動を通して、少しでも人々の不安を取り除こうと考えた。
- 東灘区はだんじり祭りが盛んです。
- 保護司・地域の推薦
- 昭和21年より敬老の日には地域の高齢者を神社にお招きし、お祝い会を実施。また、氏子地域の全老人ホームにお祝いのお菓子を配布している。
- 昔からの慣わしの継承
- 昔からの伝統行事
- 戦後、戦災孤児救済のために宗門として取り組んで現在に至る歴史がある。

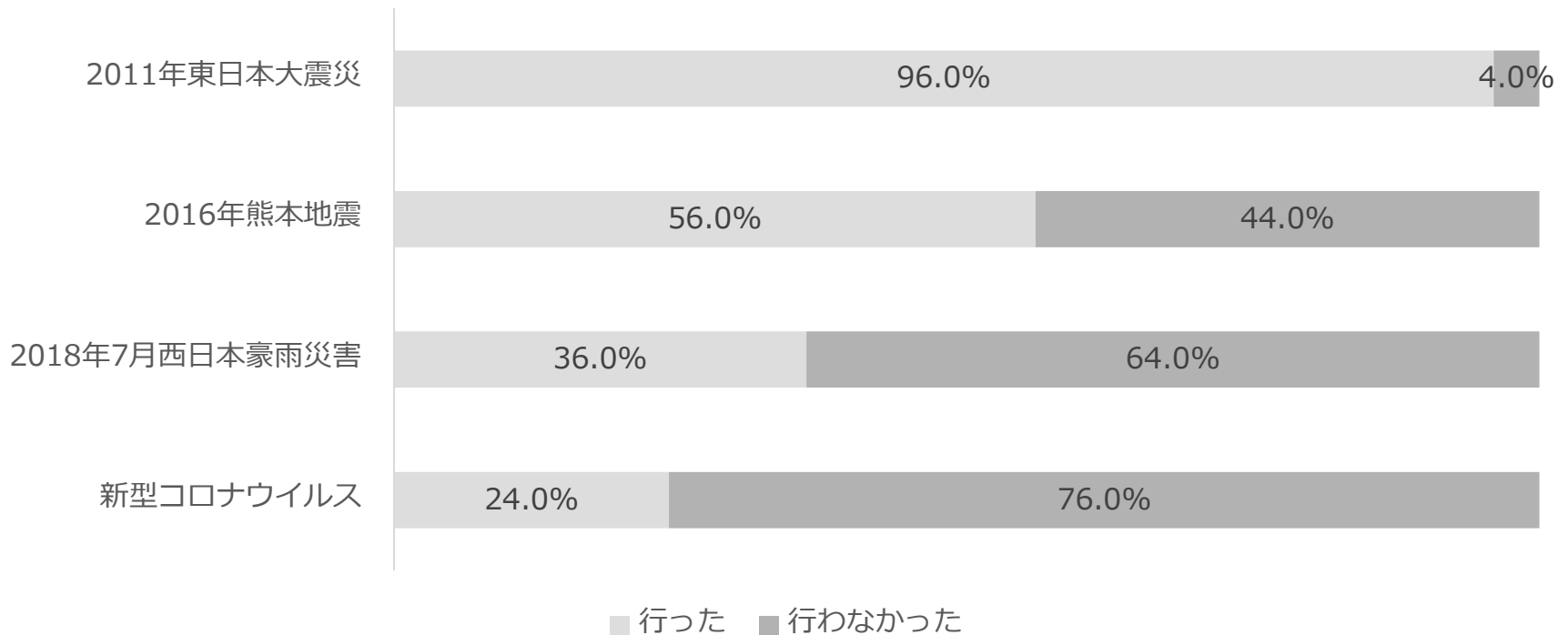
最も恩恵を受ける受益者

- 社会貢献活動によって恩恵を受ける受益者を自由記述で記載してもらい、その回答で記載された単語を分類し、下図に整理した。
- 最も多かったものは地域住民であり、次に、こども、高齢者と続いた。また、特定の属性を示す受益者についての回答は多様であった。



災害や公衆衛生上の課題への支援

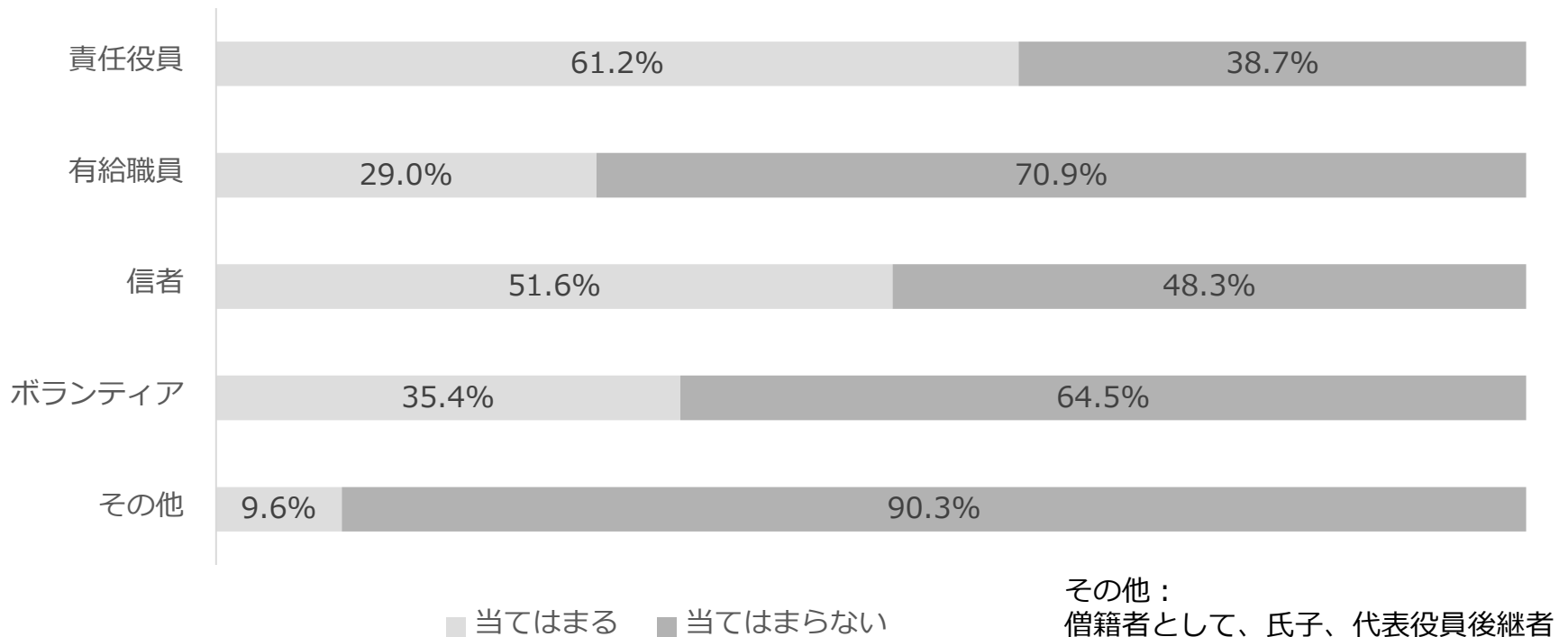
- 社会貢献活動のうち、災害や公衆衛生上の課題への取り組みを質問した。
- 東日本大震災は96.0%とほとんどの団体が支援を行ったが、新型コロナウイルスは24.0%に留まった。



N=25

主な運営・実施者

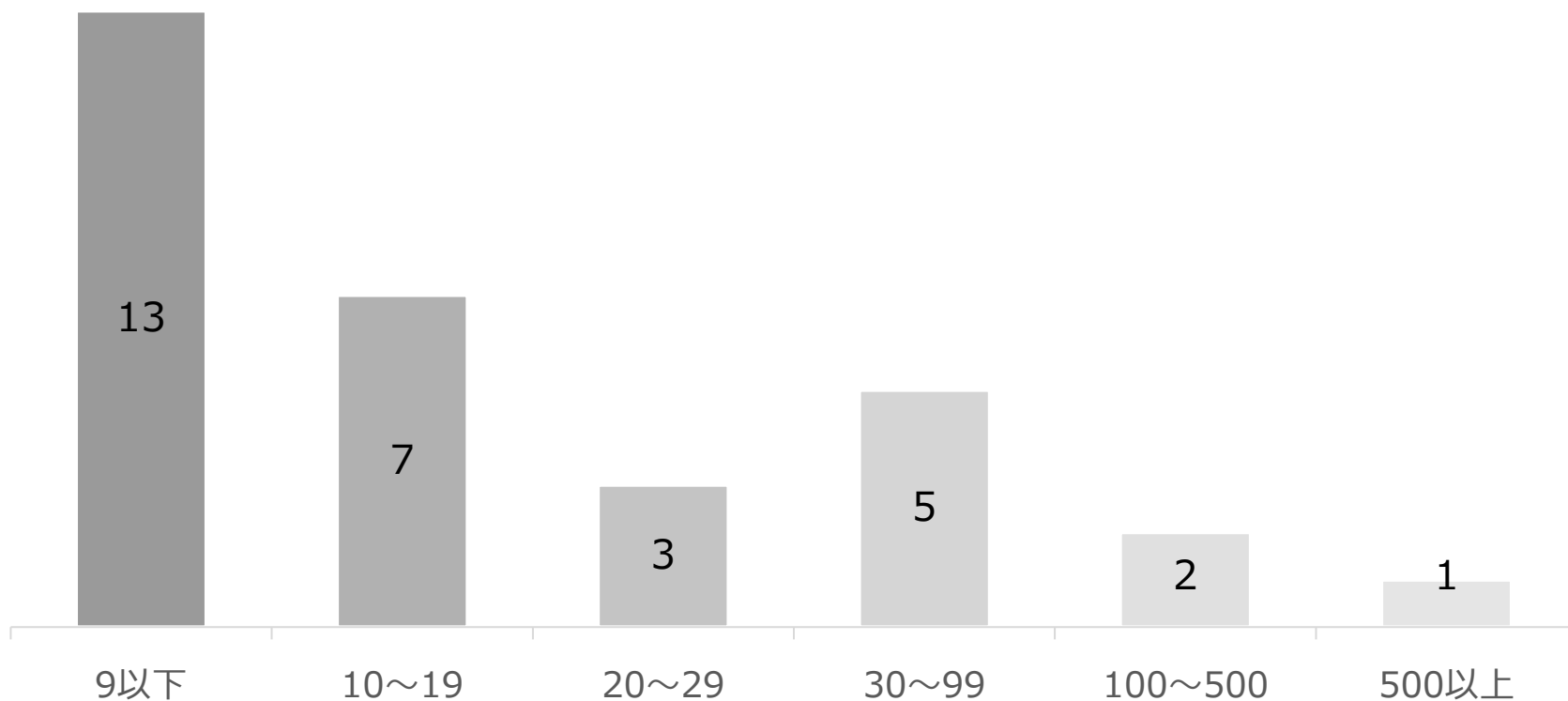
- 社会貢献活動を主に運営したり、実施したりするひとについて複数選択で聞いた。
- 責任役員が61.2%、信者が51.6%と多く、ボランティアは35.4%、有給職員は29.0%と少なかった。



N=31

活動に関わっているおおよその人数

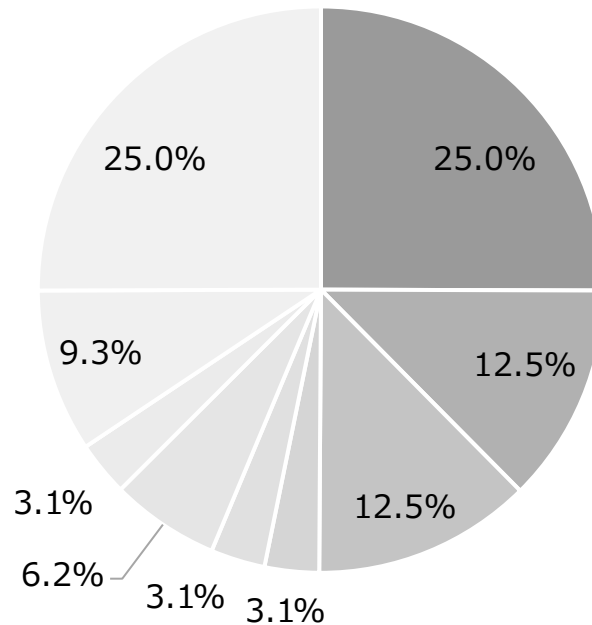
- 社会貢献活動に関わるおおよその人数を回答してもらった。「約〇人」という回答は近似値に置き換え、度数分布図にまとめた。
- 90%以上は100名未満で活動しているが、100名以上が活動に関与する法人が3つあった。



主な活動地域

- 社会貢献活動の主たる活動地域を聞いた。
- 回答割合としては、小学校区内が25.0%、特に定めていないが25.0%、中学校区内と1つの市町村がそれぞれ12.5%であった。それ以外は少数であった。

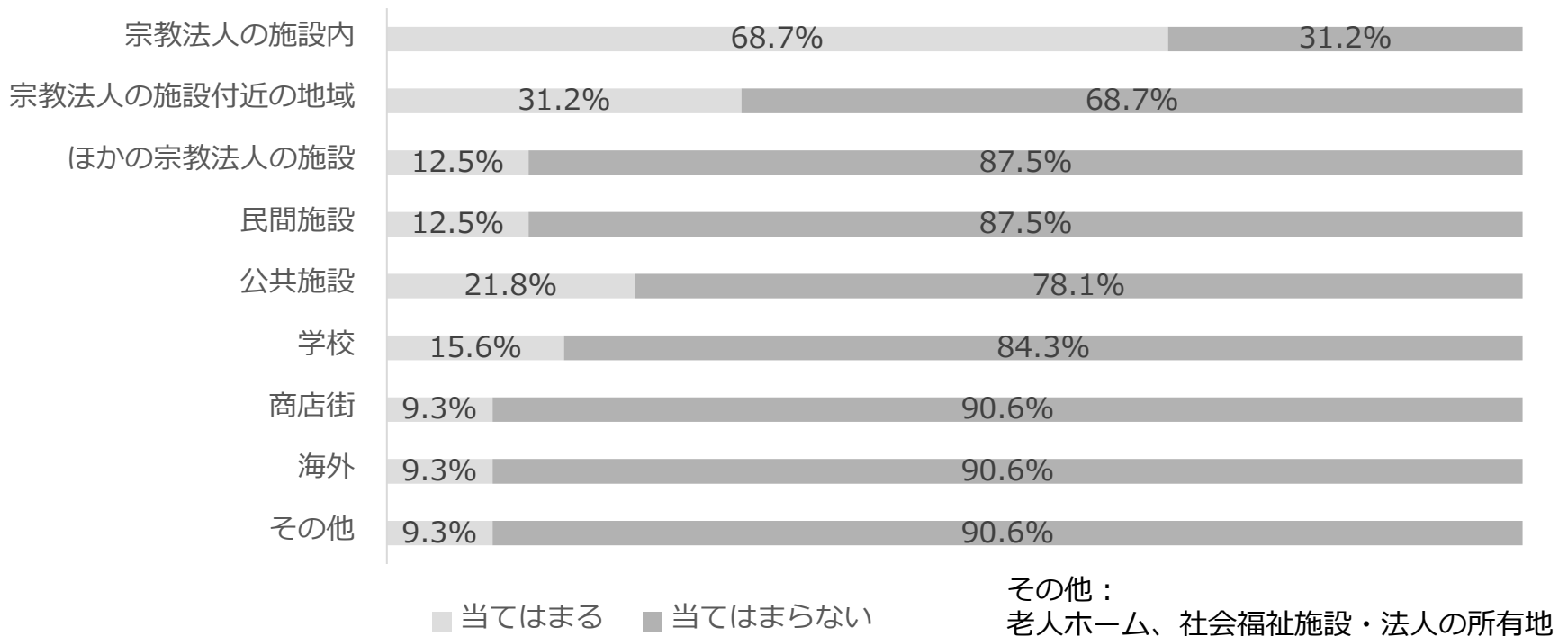
N=32



- 小学校区内
- 中学校区内
- 1つの市町村
- 複数の市町村
- 1つの都道府県
- 複数の都道府県
- 国内全域
- 国内及び海外
- 特に定めていない

主な実施場所

- 主な実施場所を複数回答で選択してもらった。
- 最も多かったものは宗教法人の施設内で68.7%であり、次が宗教法人の施設付近の地域で31.2%、公共施設で21.8%であった。

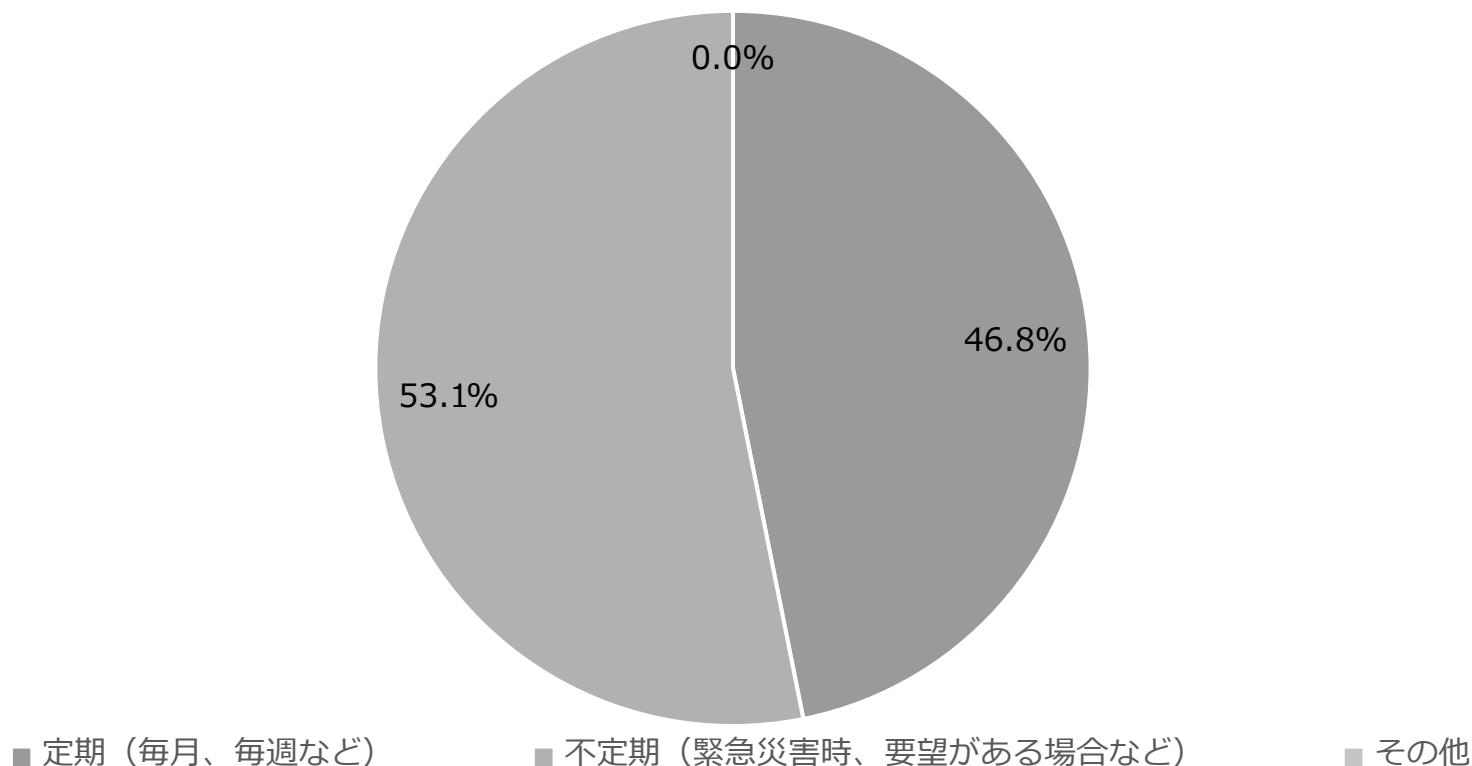


N=32

主な頻度

- 社会貢献活動の主な頻度を聞いた。
- 定期が46.8%、不定期が53.1%であった。「その他（毎日）」という回答は、「定期」に合算した。

N=32



信者に対する支援内容

- 被災地における信者の支援という回答が4件
- 被災地への寄付や支援金、義援金という回答が3件
- 被災地への支援物資の郵送、現地での災救活動、義援金の寄付
- 被災先への慰問
- 定期的な義援金
- 本願寺を通じて被災地に支援金や支援物資を送っている。
- 状況を報告し、献金を呼びかける
- 社務所や境内の解放
- 檀信徒支援・檀務・法務・行事の護持
- 障がい者のイベントの支援
- 気功治療
- 執行・無形文化財の継承
- 独居者や生活困窮者への寄り添い活動
- 海外の若者交流
- ケースバイケースで
- 特定の支援先は定めていない
- なし、特になしなどの回答が3件

別法人・団体の社会貢献活動に対する支援

- 寄付という回答が7件
- 主として寄付
- お供え物でいただいたお菓子などをおすそわけする。
- 助成金、広報協力、情報提供、食料、物品支援
- 寄付・街頭募金・募金箱活動・募金箱設置活動・福祉介護活動・青少年指導補導活動・全青協活動・警察官支援褒賞活動、他
- 法人がグループホームで受け入れ困難なケース、施設が合わないケースの障害者を教会にてお預かりしている。教会の営繕班が施設の維持修理、排水を流している河川の定期的清掃。付近の草刈り。福祉工場での大量生産時、製造機器のトラブルなど緊急時の人材派遣。
- 和太鼓団体設立を支援。障害者への演奏指導。高齢者施設への慰問。地域祭事への出演。神社所有の建物を高齢者住宅として運用。
- 運営の助言
- なし、特になしなどの回答が6件

役員や職員の個人的な社会貢献活動

- お金を寄附する
- ユニセフ・マンスリーサポート募金。わずかだが、教会内に広めたいと最近、初めました。
- キリスト教団体の会議をとおして行う
- ふれあいまちづくり協議会への参加
- 各種委員会や集まり等への参加
- 老人ホーム理事会・警察研修会・保育園役員会、他の役員会、研修会等々
- 自治会活動、福祉関連、公園清掃ボランティア
- 連合自治会長をしている信者あり
- 地域のだんじり祭
- 地域活動への参画。地域ふれあいのまちづくり実行委員会委員長。民生委員（元）。保護司。少年指導員。少年補導員。
- 地域 防災 七夕祭
- 地区青少年育成協議会 地区防災コミュニティ
- 保護司、民生委員、消防団員、児童委員
- 被災地における信者の支援 民生委員児童委員 自治会役員
- 保護司会、青少年育成協議会
- 防犯パトロールカーを購入し、所轄警察にて認定を受け、毎朝中学校区内をパトロール。
- 小学校での支援ボランティア 小学生の登校時の見守り CAP（子供への暴力防止）の活動
- 住職が拘置所の教誨師として活動しています。
- 気象予報士会に参加
- 神社祭祀
- 電話相談ボランティアに参加
- 責任役員の交代から間もないことから、まだ動き出してはいない。
- なし、特になしなどの回答が4件

法人の社会貢献活動が抱える課題

- 人数の不足
- 信者や参加者の高齢化、それに伴う減少などの回答が4件
- 会員の高齢化に伴い積極的な活動ができていない
- 若い世代が少ない
- 高齢化のために、後継者養成が課題
- 後継者育成
- 活動の主たる場の使用について、地域檀家の了承が必要なため機動的な活動がしにくい。
- 田舎の檀信徒が代表役員（住職）の活動を理解しない。金銭的な苦勞。僧侶・住職・代表役員との区別を理解出来ない檀信徒が多数。青年僧の活動が活発で嬉しいが、会の為の活動のように思う時が多々ある。休眠・兼務・解散寺院が増えている。後継者問題。私の青年時代の活動から見て、他宗教合同活動が減っている。等々……
- もっと広めたい
- もう少しネットワークを広げて、協力させて頂けることは進めたいと思う。
- さらなる活動の広報。できるだけ多くの方に活動を知ってもらうこと。
- 近隣住民がもっと関わり易くしていく。檀信徒のみの様な閉鎖的な空間（ある種の限定的なサロン）ではなく、人々のニーズに応えられるような「みんなの寺」に立ち返る。
- あくまで、信仰上で行っているのだから、教えに合わせた普通にしか出来ない。虐待防止法であるなり、ハラスメントだったり、マイノリティであったり。世の中は色々言うけど、当教会は自分たちの信念に基づき、家族で有る事を目指している。保護委託を受けている神戸家庭裁判所からは一定の評価を得ている。
- 従来教会に期待される範囲で、健全な信仰が崩れている家庭生活や人間関係の回復がはかれると信じて、堅実な教会生活を送ること。特に、カルト的な動きが増えてきたことから、信者が間違った思想に影響されないような総合的な教育を施していくこと。
- 教誨活動はコロナ禍で休止が続いています。寺院はあくまで宗教活動によって社会に貢献するのが務めだと考えていますので、当法人が主体となって別に社会貢献活動を行う予定は、特にありません。他の法人・団体の社会貢献活動に協力することは、将来的には検討したいと考えています。
- コロナ禍において活動へのニーズが急増する中、資金の調達、や継続可能な活動内容の見直し、感染対策など。
- コロナ禍で活動停止を余儀なくされ、ボランティアメンバーのモチベーションが下がり退会者が増えた。広報が難しい。なかなか人が集まらない。そもそも寺に来る人は元気な人が多く、生活上の課題が少ない。来ない人こそ手を差し伸べるべきだが、アウトリーチの手段がまだない。ただチラシを配り待っているだけでは課題は解決しないし、SNSを使おうにも高齢者はインターネット活用に積極的ではない。
- 氏神神社でありボランティア活動で実施している、特に積極的な支援活動は自治会組織が対応している
- まちの高齢化と住民のまちへの関与の希薄化を防ぎ、如何に活性化を図るか思案しています。
- なし、特になしなどの回答が3件

結論

結論

- 宗教法人は多様な社会貢献活動を行っていることが認められた
 - 大きくは、特定の分野に対して行うもの、特定の地域（特にその宗教法人がある地域）向けに行うもの、関連する宗教法人に対して行うもの（災害支援など）に分けることができる
- 社会貢献活動における課題は大きく2つに分類できる
 - 少子高齢化による信者や参加者、後継者等の不足
 - 宗教法人による社会貢献活動の認知度の低さ
- 当調査は回答数が少なかったため、これらの結果を一般化することは困難であるため、仮説を提示することに留めたい